

佐藤玲太（さとう・れいた）

北海学園大学 WR 3年

昨季のリーグ戦5試合で、総獲得距離1889ヤードのうち1067ヤードをパスで稼ぎ、TDを量産した北海学園大。伝家の宝刀の威力を、ひときわ見せつけたのが北星学園大戦の残り26秒で決めた逆転の9ヤードTDパスだった。殊勲の捕球者が当時2年生の佐藤。19-22と3点差を追う場面で「絶対にTDが必要だったが、集中できていた。緊張はなかった」と、今も忘れられないプレーになった。

小学5年から札幌光星高まで野球を続けたが、大学入学後のクラブの合同プレゼンテーションでアメフト部を知り、体験会で興味を覚えた。昨季の主将を務めたWR成田将吾（現オービック）に誘われて入部を決めた。40ヤード4.54秒の俊足と野球の外野手経験も生かして1年生からWRに。リーグ戦の本格デビューとなった昨季は、獲得距離こそリーグ6位の178ヤードだが、5試合すべてでTDキャッチを見せ、勝負強さをアピールした。「エースレシーバーの成田さんが相手チームを引きつけてくれたおかげ」と感謝しながら、「サイドライン際での相手DBとの1対1の勝負がWRのおもしろさ」と自信も見せる。

QBとレシーバー陣が若返った今季のパスユニットで、WRのリーダーも務める。コロナウイルス対策でジム通いが出来なくなると、小樽市内の自宅にミニジムを作って筋力アップに努め、179センチ、76キロの体がきれを増した。「自分の持ち味はスピードと精神的な強さ。去年の成田さんのように、苦しいときに試合の流れを変えるプレーヤーになりたい。リーディングレシーバーも取りたい」と決意しながら「ほかのレシーバーのTDをバックアップしたい」と目配りも忘れない。

昨季の北大戦の敗戦を振り返り「成田さんがマークされた分、自



分がもっとやらなくてははいけなかった」と、悔しさをかみしめながら雪辱を期す。そして「パインボウルで東北代表を倒したい。関東のフットボールも味わってみたい」とリーグ戦の先も見据えた。

【プロフィール】

1999年11月27日、小樽生まれ。経済学部地域経済学科。目標の選手は成田先輩。「成田さんを越えたい」と力を込める。札幌光星高時代は野球部の主将を務め、チームを2年ぶりの南北海道大会に導いた。